

**〔成果情報名〕 紫ピンクの花色のカーネーション新品種候補系統「長崎3884」**

〔要約〕 カーネーション「長崎 3884」は、スプレータイプで、流通量の少ない紫ピンクの花色である。株の仕立てが容易で、花にボリュームがあり、花持ち日数が長く、茎が硬く切り花に重量感があり、ブラインドの発生が少ない、すぐれた系統である。

〔キーワード〕 カーネーション、スプレータイプ、有望系統

〔担当〕 農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

〔連絡先〕 電話 （代表）0957-26-3330 （直通）0957-26-4319

〔区分〕 花き

〔分類〕 普及

---

**〔背景・ねらい〕**

カーネーションは本県花き生産における主要品目の1つである。近年、コロンビア等からの輸入増加に伴う国際競争が激化し、日本の栽培農家は経営の危機に瀕している。

産地の栽培面積の3割をピンク色の品種が占め、最も出荷量が多い花色である。中でも‘濃いピンク’は品種数が少なく生産者は‘濃いピンク’の開発を切望していた。そこで、「長崎カーネーション」のブランド化を推進するため、本所で交配した系統のうち、濃いピンクである紫ピンクの花色で、切り花に重量感があり茎が硬く花型・草姿がすぐれる有望系統「長崎3884」を、主要品種「ライトピンクバーバラ」「レジーナ」と比較し、特性を明らかにする。

**〔成果の内容・特徴〕**

1. 「長崎3884」は、スプレータイプのカーネーションで紫ピンクの花色、丸弁で開花開始時に花弁が外側から順に開く「バラ咲き」と言われる咲き方をする(写真1)。
2. 切り花長は、10月に若干短くなるが、11月から70cm以上となる。また、秋季1番花から下垂度1.0と茎が硬く、切り花重が重い(表1)。
3. 輪数は4～5輪で、ブラインドの発生が少ない(表1)。
4. 1次摘心後萌芽数は6.1本と多い(表2)。
5. 花梗長は対照2品種より短くまた、2次花柄長が短い。(表2、写真1)。
6. 花径大きく、花弁数も多く、花にボリュームがあり、花持ち日数も前処理剤(クリザールK-20C)使用で22.8日と長く、対照品種「ライトピンクバーバラ」「レジーナ」よりすぐれる(表2)。

**〔成果の活用面・留意点〕**

1. 秋季に茎が硬くなるが切り花長が若干短くなるので、草丈を伸ばすため高規格ハウス隔離ベンチ栽培が適する。

[具体的データ]



写真1 「長崎 3884」の花形・花色

表1 育成系統・品種の月別切り花品質の特性

品種名	採花開始日		切り花長 (cm)	切り花重 (g)	輪数 (輪)	下垂度	採花本数	4輪以上花率	1株当たりの採花本数
							月別 (本)	%	累積 (本)
長崎 3884	10/28	10月	66.9	28.0	4.6	1.0	0.1	100.0	0.1
		11月	71.6	31.6	4.7	1.0	1.0	96.4	1.1
		12月	75.4	35.9	5.1	1.0	1.2	99.5	2.3
		1月	76.0	38.2	5.0	1.0	0.6	98.4	2.9
		2月	78.8	40.6	5.4	1.0	0.7	98.6	3.6
レジーナ (対照)	10/9	10月	64.4	28.8	3.8	1.0	0.8	66.7	0.8
		11月	81.0	33.1	3.7	1.0	0.9	85.0	1.7
		12月	79.8	35.1	3.6	1.0	1.4	60.0	3.1
		1月	80.2	30.8	3.9	1.0	0.6	84.6	3.7
		2月	72.4	37.6	4.1	1.0	1.0	66.7	4.7
ライトピンク バーバラ (対照)	10/2	10月	56.2	22.9	5.3	2.0	0.1	100.0	0.1
		11月	68.5	21.3	3.3	1.2	0.4	50.0	0.5
		12月	71.1	26.7	4.3	1.4	1.1	75.0	1.6
		1月	71.4	28.4	4.6	1.1	1.0	92.9	2.6
		2月	68.7	32.4	4.9	1.0	0.5	100.0	3.1

注1：耕種概要は硬質フィルムハウス 隔離ベンチ栽培で、2009年6月18日に定植した。栽植様式は70cmベンチ株間10cm<sup>2</sup>条植え14000本/10a、一回目の摘心7月下旬、2回目の摘心9月中旬、3回目の摘心10月中旬。切り花品質調査は2009年10月採花開始～2010年1月31日まで行った。点滴灌水装置で常時施肥を行い、冬季は最低夜温11℃で管理した。

注2：下垂度は先端から50cmの位置で水平に保持し、下垂した角度。0°～10°=1とし、90°までを9段階に分類した数値。数値が小さいほど茎が硬い。

注3：4輪以上花率は、ブラインドの発生が無い花の採花率。

表2 育成系統・品種の萌芽数と花持ち日数、花の形質

系統名	1次摘心後萌芽数	花持ち日数(日)		花径 (cm)	花弁数 (枚)	花梗長 (cm)	2次花柄数	2次花柄長 (cm)
		無処理	前処理					
長崎 3884	6.1 ± 0.1	10.9	22.8	6.3	38.3	9.6	2.0	4.7
レジーナ (対照)	5.7 ± 0.2	11.8	16.1	5.8	31.2	13.3	2.6	6.2
ライトピンクバーバラ (対照)	4.6 ± 0.3	9.6	13.3	5.2	26.6	12.2	1.7	9.8

注1：花持ち調査は2010年1月5日～2月1日採花分で行った。無処理区は水道水で、前処理区はクリザールK-20c1000倍液で、常温で10時間水揚げ後、外花弁が水平状態の開花ステージで採花した花を用い室温20℃、湿度70%、1000lux12時間電照に設定した恒温室内で調査した。花持ちは下表評点3以上の日数の平均値を花持ち日数とした。1次摘心後萌芽数調査は2009年8月24日、花の形質調査は、2010年1月14日に行った。

鮮度の評点

評点 鮮度評価

- 5 正常な花
- 4 花弁先端部にわずかに変色・インローリング(花弁の内側への巻き込み)の見える花
- 3 インローリングが始まっているが、観賞に耐える花
- 2 萎ちょう・インローリングの明らかな花
- 1 萎ちょうの進んだ花
- 0 枯死

[その他]

研究課題名：カーネーションの新品種育成

予算区分：県単

研究期間：2009年～2013年

研究担当者：櫛山妙子